

事務事業名	読書推進事業	事業期間	～	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係（図書館）	連絡先	72-9085	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0000	複数の柱にまたがる事業	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業								
		実行計画	01	社会教育推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
計	予 算 事 業 名	図書館事業推進費			会計コード	01	款	10	項	05	目	06	事業	05
画	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を通じて「ひとづくり」「まちづくり」を行っていく。 講座等を通じて課題解決・生涯学習の場として、また市民の安らぎの場、憩いの場としての図書館づくりをしていく。 おはなし会などを開催して、読書の楽しみや親子のコミュニケーション（ことばとこころ）の大切さを知ってもらう。 市民ボランティアに活動の場の提供を行う。 												
P 目 的	現状と背景 (どうして)	<ul style="list-style-type: none"> 活字離れが課題となり、読む力、聞く力、話す力が年齢を問わず課題となっている。人間の脳や、感情を育てていく上で肉声で伝えることが大切であるが、子どもに伝える方法を知らない親が多い。また場・機会を求めており、年々家族みんなでの参加が多い。 読書ボランティア活動をしている方々からは勉強会・講座等の開催希望が多い。 												
	対 象	受 益 者 (誰のために)	赤ちゃんからお年寄りまでの市民及びボランティア団体。											
	対 象 (直接働きかける)	同 上												
	意 図 (どんな状態にしたいか)	<ul style="list-style-type: none"> おはなし会・講座・イベント等を通じて読む力、聞く力、話す力の大切さを知ってもらう。 ボランティア団体の活動の場や、生涯学習の場と機会を提供し、今後の読書活動や課題解決に役立てってもらう。 												
L A	手 段 ・ 方 法 (どうやって)	<ul style="list-style-type: none"> おはなしボランティア団体に発表の場として図書館を提供する。 公立諏訪東京理科大学、教育委員会関連施設等と連携して講座を開催する。 本（絵本）を通して読み聞かせだけでなく、幅広い分野（パペット・紙芝居・人形劇・親子遊び等）の手法を取り入れる。 市内保育園、幼稚園、小・中・高校、公共施設、読みむinちの関係へポスターや案内チラシの配布をする。 市のHP、諏訪地域公共図書館情報ネットワーク、ビブリアンなどの情報ツールを活用して情報を発信する。 												
	評 価 指 標 の 作 成	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
N	活動 指 標	1	生涯学習の場として、課題解決の場と機会の提供	一般向け講座開催回数	回	一般向け講座開催回数	13							
		2	ボランティア団体の参加を呼びかける	特別おはなし会ボランティア上演団体数	団体	上演団体数（個人含む）	15							
		3												
	変 更 履 歴													
O	成 果 指 標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値							
		1	一般向け講座参加者を増やす	講座受講者数	人	講座受講者延べ人数	110							
		2	特別おはなし会への参加者を増やす	特別おはなし会参加者数	人	特別おはなし会参加者延べ人数	500							
	変 更 履 歴													

実 施 状 況 （ D O ） 考	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	136,295	177,000	140,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	136,295	177,000	140,000			
	活動 指 標	一般向け講座開催回数	目標	回	13	13	5	
			実績		10	5		
			達成率	%	76.92	38.46	-	-
		特別おはなし会ボランティア上演団体数	目標	団体	15	15	8	
			実績		6	6		
達成率			%	40.00	40.00	-	-	
-	目標	-						
	実績							
	達成率	%	-	-	-	-		
成 果 指 標	講座受講者数	目標	人	110	110	70		
		実績		77	70			
		達成率	%	70.00	63.64	-	-	
	特別おはなし会参加者数	目標	人	500	900	700		
		実績		782	323			
		達成率	%	156.40	35.89	-	-	
備 考								

事務事業名		読書推進事業		事業期間	～	年度		係内番号	05
担当部署		生涯学習部		生涯学習課		図書館係（図書館）		連絡先	72-9085
事後評価	項目	2018年度（H30）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度			
	（成果） 変果 動指 要標 因分 （析）	諏訪東京理科大学出前講座のように、個人の楽しみの内容には受講者はある一定の受講者数はあったが、おはなしボランティアを多く育てようとした読み聞かせ講座は、申込者数が少なかった。	活動指標の目標設定が図書館運営の現状に沿っていないと職員からの指摘もあり、目標より少ない講座数としたため、講座開催数、講座参加者数とも大幅に減少した。						
価値（） C H E C K	総合評価	諏訪東京理科大学出前講座は、個人の生涯学習に繋がり、受講者の満足度も高かった。読み聞かせ講座は受講者数は少なかったが、1人ではあるが受講後、おはなしボランティアに加わったことは成果である。	昨年に引き続き諏訪東京理科大学出前講座は、個人の生涯学習に繋がり、受講者の満足度も高かった。児童対象の事業は、特別おはなし会の事業企画が2減とコロナウイルスの影響で開催中止が1事業あったが、参加者数が減った。						
	課題	諏訪東京理科大学出前講座は、開催回数を増やしてほしいという声があるが、職員体制等に課題がある。読み聞かせ講座は、受講者の知識だけで終わるのではなく、いかにおはなしボランティアとして活動して貰えるかが課題である。	講座会場である会議室の広さの関係もあり、講座参加者数の大幅増は望めない。参加者数を増やすために講座の開催回数を増やすことや事業規模を大きくすることは、カウンター等が疎かになることに繋がり課題である。						
改革	翌々年度方向性	成果 コスト	拡充 現状維持	現状維持 現状維持					
	改善の方向性（A C T）	改善の方向性の内容 策び容	諏訪東京理科大学出前講座は、現状で良いと考える。読み聞かせ講座は現在、市内でボランティア活動されている専門知識・スキルを持っている方にボランティアで講師をお願いしているが、講師の方も高齢化が進み、将来的には有償で講師を頼み、ボランティアの育成をする行く必要がある。勉強する機会も多く色々な講座・講演会等に参加される市民は多いが、自分の知識の習得と自分のスキルアップだけで終わっているため、学んだ成果を還元できるよう根気強く取り組んでいく。	諏訪東京理科大学出前講座は、参加者の満足や続けてほしいという声も多く、また大学との連携という意味でも現状で良いと考える。図書館の各種事業・講座は、おはなしボランティアと図書館職員を上演者・講師とした事業・講座が主となっており、コストは高くない。若い子育て世代への支援、幼児期から図書館・本に親しむという場の提供は、児童サービスの一つでもあり、参加者数で判断出来るものではないので成果があると思われる。しかし、参加者が増えるよう工夫をして行く必要がある。					
作成担当者		五味 仁		五味 仁					
最終評価責任者		藤森 隆		藤森 隆					
最終評価年月日		2019年5月17日		2020年7月3日					

事務事業名	科学教育振興事業	事業期間	2013 ~	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係（八ヶ岳総合博物館）	連絡先	73-0300	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予 算 事 業 名	科学教育振興事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	08	事業	07
-----------	-----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
平成25年9月5日「茅野市八ヶ岳総合博物館の展示の更新及び茅野市における科学教育の振興についての基本計画の策定について」が博物館協議会から答申された。この答申の事業計画を実現するため、平成26年度、企画運営会議を策定し、中長期事業計画の策定や、具体的方法の検討を行い、できるところから取組みを行っている。平成28年度には、モバイルプラネタリウムを導入し、博物館で投影するほか、学校などに出前投影している。科学実験工作室を整備し、自然研究や科学工作に適したスペースやメニューを作り、科学教育を推進している。

現状と背景
(どうして)
八ヶ岳総合博物館は昭和63年に開館し、30年が経過している。この間の科学研究の進展や自然の様相の変化により、現在の展示内容を替えていく必要が生じている。今後の方針について茅野市博物館協議会において平成23年～25年の3年にわたり検討され、平成25年9月5日に答申がされている。これが平成25年12月17日の政策調整会議により、再検討とされた。

目的
対象 受益者 (誰のために) 市民
対象 (直接働きかける) 市民
意 図 (どんな状態にしたいか) 21世紀の科学時代にたくましく生きる市民を育成するため、新たな基幹事業として、モバイルプラネタリウムを始めとした科学教育を推進する。市民の活動がさらに拡充できるような施設とする。

手段・方法
(どうやって)
博物館専門委員による企画運営会議で、科学教育事業、プラネタリウム事業、展示更新などについて、検討、検証、協議し、科学教育事業を実施する。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	プラネタリウム投影回数	投影回数	回	一般投影255回、学習投影70回、その他投影35回	360
成果指標	変更履歴	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	プラネタリウム視聴者数	視聴者数	人	プラネタリウム延べ視聴者数(年間)	5,000

実 施 状 況	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	1,302,007	2,130,709	1,821,000
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	1,302,007	2,130,709	1,821,000		
D 活動指標	投影回数	目標	回	340	340	340	
		実績		349	322		
		達成率	%	102.65	94.71	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
D 成果指標	視聴者数	目標	人	4,000	4,300	4,300	
		実績		4,172	4,005		
		達成率	%	104.30	93.14	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
備 考	・主要事務事業…科学教育事業の推進、プラネタリウム事業の推進 ・2019年度から、事務事業名は科学教育振興事業となる。						

事務事業名	科学教育振興事業	事業期間	2013 ~	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係 (ハヶ岳総合博物館)	連絡先	73-0300	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		2017年度のモバイルプラネタリウムの投影回数は345回、視聴者数は4,054人であり、それを上回り、目標を達成した。投影テーマは「はやぶさ2」「火星大接近」などホットな話題を提供し、多くの方が視聴した。光学式投影機による番組が好評で、追加投影を行った。	新型コロナウイルス感染症対策で2月末から3月末まで投影中止としたため、投影回数は目標340回に対し実績322回、視聴者数は目標4,300人に対し実績4,005人で、目標に及ばなかった。		
価値	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな基幹事業として取り入れたプラネタリウム事業の効果もあり、入館者は増加している。(H29 16,520人、H30 17,715人) 多くの市民の科学の分野への関心が高まっている。 ・ドーム内の夏の暑さに対応するため、クーラーを設置した。 ・学芸員や市民研究員の活動により、自然系資料(植物、キノコ、シダなど)が多数収集されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウム事業の効果もあり、入館者は増加傾向にある。(H29 16,520人、H30 17,715人、R1 16,529人) 多くの市民の科学の分野への関心が高まっている。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイルプラネタリウムのリース期間が2021年6月末で終了するので、今後を見据え、新たな機器の検討をしていく必要がある。 ・施設が手狭のため、前記収集資料を通路に収納棚を設け、当面の対応をしている。くん蒸室の自然系資料収蔵庫への改修が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイルプラネタリウムのリース期間が2021年6月末で終了するので、今後を見据え、新たな機器の検討をしていく必要がある。 ・現燃蒸庫の収蔵庫改修による自然系収蔵庫の設置が不可欠であると思われるが、これが予算的に不可能である場合、他の場所に民俗資料の一部を移転することになるが、移転するための資料の選別、台帳との突合などの業務が発生する。 			
改革	成果	拡充	拡充			
	コスト	拡大	拡大			
改善の方向性	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度は、土日・祝日に、要望があり視聴者も見込める場合、館内投影を休止し、地区公民館への出前投影に応じてきた。2019年度は、分館などからも要望があり、できるだけ応じるよう公民館用出前カレンダーを作り、分主会などで説明し、ホームページで公表する。モバイルプラネタリウムの投影回数と視聴者数の増加につなげていく。 ・館内に自然系資料の収納可能なスペースはなく、未使用のくん蒸室の設備を撤去し、自然系資料収蔵庫に改修する。(引継ぎ事項) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度に引き続き、2019年度も、土日・祝日に要望がある場合、地区公民館への出前投影に応じた。昨年度よりも投影要望が多く、応じてきた成果があった。今後も公民館分主会での説明を行っていく。 ・コストの方向性は、プラネタリウム解説投影講師分が縮小となるが、全天周動画像素材、太陽系惑星模型の購入と自然系資料収蔵庫の改修があるので拡大とする。 			
	改善の内容					
策	策					
作成担当者	両角英彦	柳川英司				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				

事務事業名	博物館運営事業	事業期間	1988 ~	年度	係内番号	09
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係（八ヶ岳総合博物館）	連絡先	73-0300	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	博物館運営費	会計コード	01	款	10	項	05	目	08	事業	02
-------	--------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 博物館は、「収集保存」「調査研究」「展示教育」の3つの機能を統合して行う施設である。貴重な資料を収集し、良好な状態で保存し、世代を超えて引き継いでいくことが使命である。そして、この資料が生まれた背景を分析し、その価値を見出し、調査研究した成果を展示して、教育にいかすことが求められる。博物館の運営は、茅野市博物館協議会に諮り、又は、企画運営会議で協議し、意見を聞き、取り入れ、実施する。

現状と背景
 (どうして)
 博物館の運営は、博物館協議会で検討され、実施している。学識経験者、教育関係者・博物館関係者から構成される組織で、館長からの諮問に応じる機関である。このほか、八ヶ岳総合博物館の運営に特化した企画運営会議があり、案件の内容に応じて開催する。

目的
 対象
 受益者 (誰のために)
 博物館利用者
 対象 (直接働きかける)
 博物館協議会委員、企画運営会議委員
 意図 (どんな状態にしたいか)
 博物館活動の推進のため、事業及び企画について、活発な審議が行われるようにする。

手段・方法
 (どうやって)
 博物館の実施する事業について、活発な審議が行われるようにする。博物館活動についての議論がスムーズに行われことにつながるため、事前に、会議資料を委員に届け、内容を確認してもらい、会議に出席していただいている。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	協議会の開催	開催回数 (協議会)	回	年間目標開催回数	2
		2	企画運営会議の開催	開催回数 (企画運営会議)	回	年間目標開催回数	1
		3					

評価指標の作成	成果指標	成果・効果は何?		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	協議会委員出席者数	会議出席率	%	延出席委員数÷委員数×開催数×100	80
		2	企画運営会議への付議案件	企画運営会議案件数	件	委員及び職員からの提案数 (年間)	4

実施状況	項目	単位	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等 (a)	円	8,302,572	8,614,943	8,901,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	876,880	819,030	827,000		
	一般財源	円	7,425,692	7,795,913	8,074,000		
活動指標	開催回数 (協議会)	目標	回	2	2		
		実績	回	2	1		
		達成率	%	100.00	50.00	-	-
	開催回数 (企画運営会議)	目標	回	1	1	1	
		実績	回	1	1		
		達成率	%	100.00	100.00	-	-
-	目標	-					
	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	会議出席率	目標	%	80	80	80	
		実績	%	86	94		
		達成率	%	107.76	118.06	-	-
	企画運営会議案件数	目標	件	2	2	2	
実績		件	3	1			
達成率	%	150.00	50.00	-	-		
備考	・主要事務事業…博物館運営事業、学校支援・連携事業、公立大学法人諏訪東京理科大学連携事業、博物館等各種施設との連携事業						

事務事業名		博物館運営事業		事業期間	1988 ~	年度		係内番号	09
担当部署		生涯学習部		文化財課		博物館係 (八ヶ岳総合博物館)		連絡先	73-0300
事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度			
	（成果） （変果） （動指） （要標） （因分） （析）	博物館協議会は2回開催し、2回とも11人中10人が出席した。企画運営会議は1回開催し、7人中5人が出席した。出席委員全員から意見をいただき、事業の内容などに反映することができた。	博物館協議会は、6月は、11人中10人が出席した。3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。（資料を送付し、意見、質問等は書面等で提出してもらった。） 企画運営会議は1回開催し、7人全員が出席した。案件の提出は市側からの1件であった。 出席委員全員からの意見をいただき、事業計画などに反映することができた。						
価値	（総合評価）	博物館協議会では、事業報告書への市民研究員養成事業の成果の表し方について、参加者数を記入するよう意見があった。その後は、そのようにし、事業の成果が分かりやすくなった。	企画運営会議では、令和2年度の事業計画をもとに、館運営について協議した。中期計画に触れながら、来館者がワクワクする博物館など、諸課題について意見交換することができた。						
	（課題）	・博物館協議会と企画運営会議からは、博物館の運営に関し様々な意見、提案をいただくが、様々な制約から、実現できるものは、限定的なのが現状である。 ・職務の専門性から、臨時職員の嘱託化の検討が必要である。（1人） ・公共施設再編計画における検討を進める。	公共施設再編計画における検討を進める。						
改革	（翌々年度方向性）	成果 コスト	拡充 現状維持	拡充 現状維持					
	（改善の方向性）	（改善の方向性） （内容） （策） （容）	・それぞれの会議では、委員全員から意見をいただいた。各種事業の実施においては、その意見を念頭に実施していく。今後も、活発に意見をいただくよう、分かりやすい資料作りと、資料の事前配布をする。 ・2020年度は館パンフレットの更新、館長研修費があるが、予算増100万円未満のため、現状維持と表記する。	活発に意見をいただくよう、分かりやすい資料作りと、資料の事前配布をする。					
作成担当者		両角英彦		柳川英司					
最終評価責任者		両角勝元		五味健志					
最終評価年月日		元. 5. 17		2020年7月3日					

事務事業名	生涯学習講座関連事業	事業期間	～	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	連絡先	633	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0104	生きる力の基礎を培う		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予 算 事 業 名	生涯学習講座関連事業	会計コード	01	款	10	項	05	目	01	事業	09
-----------	------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 ・教育関係諸施設・機関と緊密な連携をはかりながら、市民の自己充足と市民力の向上に努める。
 ・生涯学習のまちづくり推進のため、個性豊かな地域づくりを目指す。
 ・市民一人ひとりが人権感覚を磨き、部落差別をはじめとするあらゆる差別と偏見をなくし、自ら進んで、差別のない明るく心豊かな住み良いまちづくりを目指し、自主的、組織的な学習活動の推進を図る。

現状と背景
 社会に於ける情報化、国際化、高齢化の進展に対応し、新しい知識や技術等を通して学習していくニーズが高まってきている。さらに学び、それを表現したりまちづくりに生かすことによって生きがいを求める等市民の学習要求は高度化、多角化している。
 また、国際化、情報化等の社会の急激な変化により人権問題は多様化しているため、今後、互いの人権を認め合い、一人ひとりが自ら人権尊重の精神を育むための教育・啓発がますます重要になる。

目的
 対象者：市民
 対象：市民
 意図：生涯学習事業を通じた、市民の自己充足と市民力の向上。基本的人権が保障され、偏見や差別をなくし、国籍、性別、障害者、いじめなど、あらゆる差別を許さない、相互理解に立った人間性豊かな社会にする。

手段・方法
 ・学校における生涯学習の推進…学校開放講座、開かれた学校づくり講座、生涯学習推進事業「ようこそ先生」を実施する。
 ・読書教育推進…読書教育推進指定校、読書教育研修会の開催。
 ・人権教育の推進…人権教育推進委員会、人権教育研修会の開催。

活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	生涯学習の基礎を培う学校教育の充実	学校開放講座・開かれた学校づくり講座	回	講座開催数	70
2	学校教育における読書教育の充実	中学校区読書教育研修会の開催	回	中学校区読書教育研修会の開催数	4
3	人権を尊重する環境づくりの充実	人権教育研修会の開催	回	研修会開催数	1

成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	学校や家庭を含めた地域全体の教育力の向上	学校開放講座・開かれた学校づくり講座	人	参加者数	10,400
2	人権問題への意識の高揚	研修会参加者数	人	年間の研修参加者数	120

項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業費等(a)	円	703,030	837,373	847,000		
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円					
一般財源	円	703,030	837,373	847,000		
活動指標	学校開放講座・開かれた学校づくり講座	目標	70	70	70	
		実績	64	63		
	達成率	91.43	90.00	-	-	
	中学校区読書教育研修会の開催	目標	4	4	4	
		実績	4	4		
	達成率	100.00	100.00	-	-	
人権教育研修会の開催	目標	1	1	1		
	実績	1	1			
達成率	100.00	100.00	-	-		
成果指標	学校開放講座・開かれた学校づくり講座	目標	10,400	10,400	10,400	
		実績	10,472	13,399		
		達成率	100.69	128.84	-	-
	研修会参加者数	目標	120	120	120	
		実績	120	104		
		達成率	100.00	86.67	-	-

備考
 平成30年度まで05人権教育費と09生涯学習講座関連費分かれていたが、平成31年度から統合。計画における柱は6(1)学校を中心とした家庭・地域との連携・充実と6(3)人権教育の推進にまたがる。

事務事業名	生涯学習講座関連事業		事業期間	~	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係		連絡先	633	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果） （変動） （要因） （分析）		学校開放講座は、教職員の負担が多いことから、今後外部講師による、開かれた学校づくり講座を推進する。人権教育研修会のテーマ・講師により、参加者数の増減要因となる。	学校開放講座は、教職員の負担が多いことから、今後も外部講師による、開かれた学校づくり講座を推進する。人権教育研修会のテーマ・講師により、参加者数の増減要因となる。		
価値	総合評価	学校や家庭を含めた、地域全体の教育力の向上に役立っている。人権問題への意識の高揚。	学校や家庭を含めた、地域全体の教育力の向上に役立っている。また、コミュニティスクール構想と合致し、地域の方が学校を訪れたり、学校に関わるきっかけとなっている。			
	課題	開かれた学校づくり講座を推進することで、新たな講師の開拓が必要となる。	開かれた学校づくり講座を推進することで、新たな講師の開拓が必要となる。人権意識醸成のための研修会として適切で興味あるテーマや講師の選定が重要			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性	学校開放講座・開かれた学校づくり講座について、学校開放講座は教職員の負担が多いことから、開かれた学校づくり講座のウエイトを増やしていく。効果として地域の人的資源を活用し、学校教育に活用する。 また、中学校区毎の読書教育研修会は、子どもの主体的な読書活動に寄与し、創造力・思考力・表現力を培うとともに生涯にわたって学ぼうとする姿勢を育成ことに役立っていることから現状維持とする。 なお、人権は教育の根幹であることから重要な事業と考える。コスト面については、現状維持とする。	学校開放講座・開かれた学校づくり講座について、学校開放講座は教職員の負担が多いことから、開かれた学校づくり講座のウエイトを増やしていく。効果として地域の人的資源を活用し、学校教育に活用する。 中学校区毎の読書教育研修会は、子どもの主体的な読書活動に寄与し、創造力・思考力・表現力を培うとともに生涯にわたって学ぼうとする姿勢を育成ことに役立っていることから現状維持とする。 また、人権は教育の根幹であることから重要な事業と捉え、引き続き研修会等意識醸成を図る。			
策	策					
作成担当者	伊藤 研一		河西 茂廣			
最終評価責任者	藤森 隆		藤森 隆			
最終評価年月日	2019年5月17日		2020年7月3日			